シオプロ

まちのかたち
キオクノ キロク

シオヤ アキヤ 古家再生

SHIOYA AKIYA

好きだったあの古い家が、
いつの間にか取り壊されていた。
そんなことが近所で増えてきて、
まちのかたちがじわじわと変わりつつある。

見慣れた風景の中にあったものが
ふいになくなってしまうことは、
それにまつわる記憶も失われてしまうということ。

変わりゆくものに対して
なにもできない状況をなんとかしたい。

行政や建築家も、
空き家再生に向けて動きはじめている。

2回目の開催となる
「シオヤアキヤ 古家再生」では
古家再生のプロたちから、
制度のこと、お金のこと、活用方法を具体的に聞く。

古い家を再生・活用するための
実践的な術を身につける機会にしたい。

2/18(土)

❶ 10:00〜12:00 家を残す、まちを活かす	❷ 13:00〜18:00 家をひらく、まちを育む

2/19(日)

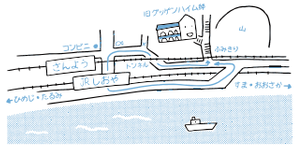
❸ 10:00〜13:00 家を巡る、勝手にうなづく （通し券を購入された方のみ参加できます）	
❹ 14:00〜16:00 術を知る、家が残る	❺ 17:00〜19:00 家に驚く、家に痺れる

料金：**イベント各回 1,000円／通し券 4,000円**（30枚限定） 事前予約が必要です

神戸・塩屋 **旧グッゲンハイム邸** 神戸市垂水区塩屋町3-5-17

予約・お問い合わせ **塩屋百景事務局**（火水は定休）

TEL：078-220-3924 E-mail：info@shiopro.net Web：www.shiopro.net



※前日までにご予約ください。定員になり次第受付終了。
※参加日、イベント名、お名前、電話番号、参加人数をご連絡ください。
メールの場合はこちらからの返信をもって予約完了とさせていただきます。

シオヤプロジェクト

主催：シオヤプロジェクト
令和4年度 神戸市・まちの再生・活性化に寄与する文化芸術創造支援助成金対象事業

かけがえのないものが
音も立てずにまちから消えていく。
なにげないものが愛おしい。
そういうものを
かたちにしておきたい。

トークイベント

2023
2/18(土)19(日)

神戸 塩屋 旧グッゲンハイム邸

「建築家との協働による空き家活用促進事業」採択者のみなさん

- **家成俊勝** dot architect
- **岩﨑大輔** 神戸R不動産
- **角野史和** こと・デザイン
- **島田陽** タトアーキテクツ
- **豊田雅子** 尾道空き家再生プロジェクト
- **西村周治** 西村組・合同会社廃屋
- **新田悟朗** 尾道空き家再生プロジェクト
- **橋本健史** 橋本健史建築設計事務所
- **松村淳** 関西学院大学
- **和淵大** 神戸市建築住宅局

シオヤ アキヤ 古家再生

SHIOYA AKIYA

各回 1,000円　通し券 4,000円（30枚限定）
「3 家を巡る、勝手にうなづく」は、通し券を購入された方のみ参加できます

2/18 土

出店
かばくんカレー / 喫茶シロクマ

1 家を残す、まちを活かす

10:00〜12:00

豊田雅子 尾道空き家再生プロジェクト
松村淳 関西学院大学
和淵大 神戸市建築住宅局

ファシリテーター/**角野史和**（こと・デザイン）

最近まちを歩いていると、空き家が目につく。全国的にも空き家の数は年々増加し、過去最多らしい。簡単に壊したりしたくない。もう見てられない。なんとかできないだろうか。そこで、解体の危機に瀕する空き家を再生し続けてきた尾道の先駆者と、住まいに関することならなんでも相談に乗ってくれる神戸の「すまいるネット」に話を聞いてみよう。リノベーションの現場を支える「街場の建築家」のことも、専門家とともに考えてみたい。家を救う「建築家」は実は身近にいるらしい。古家を残して活かす術を知る2時間。

2 家をひらく、まちを育む

13:00〜18:00（休憩あり）

「建築家との協働による
空き家活用促進事業」
採択者のみなさん

コメンテーター
角野史和（こと・デザイン）　**豊田雅子**（尾道空き家再生プロジェクト）
松村淳（関西学院大学）　**和淵大**（神戸市建築住宅局）

2022年4月、神戸市に全国的にめずらしい補助金の制度ができた。その名も「建築家との協働による空き家活用促進事業」。建築家とともに空き家を活用し、地域の課題を解決する際の改修費用に使える補助金で、なかなか進まない空き家再生の機運を高めたいとの思いからはじまった取り組みである。今回採択された20組は家のリノベーションにとどまらず、商店街や村ごと再生するプロジェクトなんかもあってバリエーション豊か。採択者ほぼ全組による大プレゼン大会を行い、コメンテーターによるアドバイスも。空き家をまちにひらくことで果たしてどんな未来が待っているのか。

3 家を巡る、勝手にうなづく

通し券を購入された方のみ
参加できます

2/19（日）　10:00〜13:00　集合場所：JR塩屋駅北側の階段下

空き家に悩まされる一方で、塩屋のリノベーション物件は年々増加している。塩屋ではお店だけではなく住居もまるっとリノベはよくあることだが、他の地域と比べるとめずらしいのだとか。道がせまい、階段が多い、斜面地だらけ、つまり再建築が難しい物件が多くて新築が建てづらいというやっかいな事情によるところが大きいのだろう。暮らすひと、営むひとのいる場所へ息を切らして足を運べば、まちや古家がより大きな視点でみえてくる。

2/19 日

出店
六甲山系ピカソ/ homesickcafe

4 術を知る、家が残る

14:00〜16:00

岩﨑大輔 神戸R不動産
西村周治 西村組・合同会社廃屋
新田悟朗 尾道空き家再生プロジェクト

数々の空き家再生を手がけてきた3組に、リアルな事例とノウハウを根掘り葉掘り聞く。尾道からは、改修を楽しいイベントにしたり、行政と密に連携をとったりしながら再生しやすい仕組みを作ってきた事例を。「廃屋ジャンキー」との異名を持つ空き家再生人、西村周治には「ほんとうに価値のある家」って何なのか問うてみたい。そして、古家の社会的価値を築いてきたとも言えるR不動産も登壇。必要な手続き、お金の借り方、資材の保存や再生について聞こう。「負の財産」と思われがちな古家・空き家をポジティブに捉え直す時間にしたい。

5 家に驚く、家に痺れる

17:00〜19:00

家成俊勝 dot architect
島田陽 タトアーキテクツ
橋本健史 橋本健史建築設計事務所

リノベーションも得意とする気鋭の建築家らによるプレゼンテーション。新しい神戸市立垂水図書館の設計を手がける島田陽、数々のアートプロジェクトや千鳥文化の再生に携わる家成俊勝、新しいものと古いものとを繋ぎながら多くのリノベーションを生み出してきた橋本健史をゲストに迎える。彼らが手がけた痺れる建築の紹介とともに、建築家視点でセレクトした世界のリノベーション事例やそのあり方について存分に語ってもらう。ただきれいにするだけが正解じゃない、アイデアで古いものを更新していくリノベーションの真髄を学ぶ。

かどの ふみかず
角野史和
こと・デザイン

一級建築士・まちづくりコンサルタント。1980年生まれ。場所愛と1対1のお付き合いに基づいた建築設計、住民主体のまちづくり支援・地域計画・地域振興に携わる。また「空き助ながた」の代表として、空き家空き地で困っている所有者を助け、地域の魅力資源に転換する取り組みに加え「神戸市空き家おこし協力隊」の活動も行う。

とよた まさこ
豊田雅子
尾道空き家
再生プロジェクト

1974年尾道に生まれ、坂や路地に囲まれて幼少時代を過ごす。高校卒業後初めて尾道を離れ大阪に出て、故郷の良さを再認識する。関西外国語大学英米語学科を卒業後、JTBの専属のツアーコンダクターとして海外を飛び回る生活を8年ほど続ける。渡航歴は100回以上。帰郷して結婚後、その経験を生かして尾道らしいまちづくりを提唱する「尾道空き家再生プロジェクト」を発足。現在、同NPOの代表理事を務めながら、双子男児の母として日々奔走中。

まつむら じゅん
松村淳
関西学院大学

関西学院大学社会学部准教授。著書『建築家として生きる』『建築家の解体』。
「街場の建築家」とユーザーによるボトムアップ型のまちづくりに注目し、フィールドワークを主体とした研究を行っている。

わぶち だい
和淵大
神戸市建築住宅局

神戸市役所建築住宅局政策課空き家空き地活用担当課長。2021年4月から空き家・空き地の活用促進に取り組んでいる。これまで建築指導、住宅政策、企業誘致、市営住宅の整備等に携わっている。

にった ごろう
新田悟朗
尾道空き家再生
プロジェクト

NPO法人尾道空き家再生プロジェクト専務理事。尾道生まれ。大学では都市計画を専攻、学生時よりプロジェクトに関わり、2010年より専任。空き家バンクを担当し、成約数は13年間で140件以上。主な再生物件に、尾道ゲストハウス「みはらし亭」・「あなごのねどこ」、「三軒家アパートメント」、「松翠園大広間」等。プロジェクト企画から施工、改修後の運営・マネージメントを行う。2023年春よりを中長期滞在施設「オノツテビルヂング」運営開始予定。

いわさき だいすけ
岩﨑大輔
神戸R不動産

兵庫県出身、神戸市北区在住。関西学院大学総合政策学部卒。内装会社、不動産デベロッパー勤務後、2013年より神戸R不動産に参画。主に六甲山頂や農村で使われずに放置された建物の再生企画を手掛けている。

にしむら しゅうじ
西村周治
西村組
合同会社廃屋

1982年京都府生まれ、だれもが見向きもしないようなボロボロの廃屋を買って改修、完成したら引っ越しを繰り返している。最近では複数棟まとめて買い「村」にまで発展し、各所に村ができつつある。西村組 一級建築士事務所（建築施工集団）親方、合同会社 廃屋（廃屋を買って再生する不動産業者）代表。

いえなり としかつ
家成俊勝
dot architect

1974年兵庫県生まれ。建築家。京都芸術大学教授。2004年、dot architectを設立。アート、オルタナティブメディア、建築、地域研究、NPOなどが集まるコーポ北加賀屋を拠点に活動。代表作はUmaki Camp（2013、小豆島）、千鳥文化（2017、大阪）など。第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展（2016）にて審査員特別表彰を受賞（日本館出展作家）。第2回小嶋一浩賞受賞。

しまだ よう
島田陽
タトアーキテクツ

1972年神戸生まれ。1997年京都市立芸術大学大学院修了後、直ちにタトアーキテクツ設立。著書に『島田陽　住宅/YO SHIMADA HOUSES』『日常の設計の日常』『7iP #04 YO SHIMADA』等。京都市立芸術大学准教授、神戸大学、神戸芸術工科大学非常勤講師。

はしもと たけし
橋本健史
橋本健史建築
設計事務所

橋本健史建築設計事務所代表、403architecture [dajiba]共同主宰。1984年神戸生まれ。2021年より東京から神戸に拠点を移して活動している。都市と密接に連関した浜松での一連のプロジェクトのほか、場所の可能性を建築的思考で浮かび上がらせるプロジェクトを各地で手がける。現在、神戸芸術工科大学、関西学院大学、大阪公立大学、京都市立芸術大学、京都芸術大学、名城大学、桑沢デザイン研究所非常勤講師。